残雪の槍ケ岳
ばれんの会　岡庭聡
（恵那市大井町）

高山支局
〒506―0005
高山市七日町2―192―2
0577（32）0350
Fax（34）5215
萩原通信局
0576（52）1025
Fax（53）0006
飛騨通信部
0577（73）6701
Fax（73）6738

岐阜支社
〒500―8875
岐阜市柳ケ瀬通一丁目12番地
058（265）0191
Fax（262）8706
（販売）（265）0265
（広告）（266）4791
（事業）（265）0267

内科・消化器内科・人間ドック
しもむら医院
岐阜市神室町五丁目
☎（262）3797

飛騨さんぽ

鉱山跡に瞬く〝宝〟

金山 蛍石発掘ツアー

坑道内を案内する中島さん＝いずれも下呂市金山町で

紫色に光る鉱物「蛍石」を探す「ミネラルハンティングガイドツアー」が、下呂市金山町の笹洞鉱山跡地で開かれている。宝物を発掘するようなツアー名にひかれ、ガイドの中島眞一郎さん（画も）とともに鉱山に入った。真っ暗な内部では、夜空にひしめく星を見るような体験をした。

JR飛騨金山駅から車で十五分ほどで白山神社に到着。ここから歩いて鉱山を目指す。道中、ツアーを運営するグループ「笹洞フローライト鉱業」の拠点となっている小屋に立ち寄り、採集した鉱石などを見せてもらった。蛍石が製鉄の溶融剤などに使われることを学び、その特徴を頭にたたき込む。

新緑に囲まれた山道は、豊富な水が脇を流れ、涼しい。二十分ほど歩くと、中島さんが「あれが鉱山の痕跡ですよ」と指さした。山の斜面に、さびついた巨大ミキサーが見えた。かつては、採集した鉱物をこの機械で砕いたという。

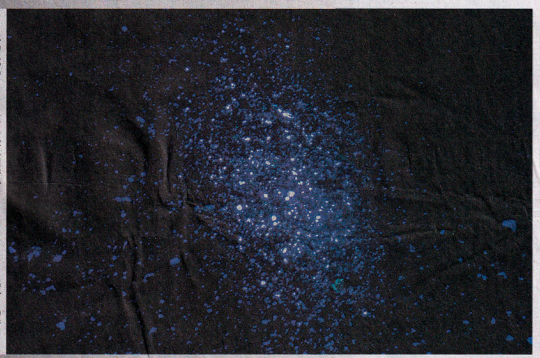
山道が大きくえぐられた場所に出た。昨年夏の豪雨で濁流に削られたそうだ。「蛍石が露出し、たくさん見つかるようになった」と中島さん。削られた斜面で石を探してみるが、自分の目ではなかなか見つからない。「ここですよ」と中島さんがブラックライトを当てると、紫色に光る石があちこちにある。大きさは直径一～十㌢程度。石を採集し、さらに進むと、鉱山の坑道の入り口があった。

ヘルメットをかぶって坑内に入る。暗闇でブラックライトを光らせると、床に落ちているたくさんの蛍石が青く、ぼうっと浮かび上がった。カメラで撮影してみたところ、満天の星のように写った。「これは感動しますね」と中島さんに声を掛けると、大きくうなずいた。

笹洞鉱山は、一九五五年に鉱石採掘会社「松下鉱山」が蛍石を掘り始めた。関市側で同じ鉱脈を掘っていた平岩鉱山と合わせ、産出量は日本一だったという。が、輸入品に押されるなどして七一年に閉山した。

「廃虚のようになっていたが、地元の大事な歴史を紹介したいと思った」と中島さん。地元の有志と五年前に笹洞フローライト鉱業を立ち上げ、代表を務める。ツアーでは、蛍石の見つけ方から保管方法、鉱山の歴史まで紹介。始めた頃に年間六十人ほどだった参加者は昨年、七百人にまで増えた。

中島さんは「鉱物採集の入り口に位置付け、子どもたちにも楽しんでほしい」と期待する。小さな蛍石を持ち帰り、乾かしてみると、澄んだ薄緑色が美しく輝いて見えた。（吉田幸雄）



星の光のように、坑道内でブラックライトに輝く蛍石

㊤鉱山内に残された巨大ミキサー
㊦山道の斜面に露出し、ブラックライトで輝く蛍石

ミネラルハンティングガイドツアー　要予約で、大人2500円、中学生以下500円。ＪＲ飛騨金山駅から南に15分ほどの菅田公民館に集合。ツアーは２時間ほどで、採集した蛍石は１人１㌔まで持ち帰ることができる。３月１日～10月末まで。㊊金山町観光協会＝080（3637）2201